編　修　趣　意　書

（教育基本法との対照表）

※受理番号	学　校	教　科	種　目	学　年
103-73	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教　科　書　名		
50 大修館	文国 704	文学国語		

１．編修の基本方針

・文学的な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、言語文化の通時的・共時的な広がりへの理解や、自らのものの見方、感じ方、考え方を深め、総合的な国語力をはぐくむことができるよう配慮する。
・思考力や想像力、他者に共感する力を伸ばし、創造的に考える力・他者との関わりの中で伝え合う力を育むとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度と、多様な文化や伝統に対する関心を養うことができるよう配慮する。
・教育基本法第2条に示された教育目標への対応に配慮しつつ、近代から現代まで、さまざまなジャンル・内容の教材を幅広く取り上げる。
・教材化にあたっては、生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をとおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

２．対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第Ⅰ部 1　随想・評論（一） 想像と共感 飛ぶことを知っている魂／ 十八歳の選択／ ［書く］体験に基づいて書く	・身近なできごとや自然を描いた文章に触れ、想像したり共感したりしながら、自分自身の生き方を見つめることをねらいとし、キビタキの幼鳥の様子を描いた「飛ぶことを知っている魂」、作者が自身の進路選択について振り返る「十八歳の選択」を収録した。（第1・2・3・4号） ・自分自身の体験や、その体験に対する感想・思いを書くことをねらいとし、「体験に基づいて書く」を設けた。（第1・2号）	pp. 7-20
2　小説（一） 現代への視点 旅する本／ ［展開］「旅する本」について／ 巨人の接待	・語り手の役割を意識しながら、登場人物の描写を的確にとらえることをねらいとし、さまざまな人と本との出会いを描く「旅する本」、文学界の巨人と通訳の交流を描く「巨人の接待」を収録した。（第1・2・5号） ・「旅する本」については、作者が作品の創作意図を述べた「『旅する本』について」をあわせて収録し、さらに理解を深められるようにした。（第1・5号）	pp. 21-52
3　小説（二） 語りの世界 山月記／ ［探究］翻案が広げる世界	・文体の特徴や語りの構造をとらえ、登場人物の心情や境遇を理解することをねらいとし、「山月記」を収録した。（第1・2・3号） ・「山月記」をきっかけとして、翻案された作品について調べたり、もとになった作品と比較したりすることをねらいとし、「［探究］翻案が広げる世界」を設けた。（第1・5号）	pp.53-68
4　小説（三） 想像を広げる 山椒魚／離さない	・構成や表現効果に着目し、寓意的な表現の意味を考えることをねらいとし、岩屋に閉じ込められた山椒魚と蛙の姿を描いた「山椒魚」、人魚に魅せられた人間を描く「離さない」を収録した。（第１・３号）	pp.69-96
5　随想・評論（二） 自然を表す 鹿を追いかけて／ ［展開］かもしか／ 浄瑠璃寺の春／ ［書く］情景を描写する	・文章の展開に即した情景描写に着目し、自然と人間との関係をとらえることをねらいとし、幼い日の鹿との出会いや、「鹿」という詩から想起される思いをつづった「鹿を追いかけて」、妻と二人で浄瑠璃寺を訪れた春の日を描く「浄瑠璃寺の春」を収録した。（第１・４号） ・「鹿を追いかけて」については、作中の同じできごとを詩という表現形式であらわしている「かもしか」を収録し、あわせて読むことで理解を深められるようにした。（第１・４号） ・情景を伝えるために比喩やオノマトペを使って表現を工夫しながら書くことをねらいとし、「情景を描写する」を設けた。（第１・２・４号）	pp.97-118

6　小説（四） 記憶の継承 こころ	・人物関係や人物の境遇と心情をおさえ、書簡体の表現について理解することをねらいとし、「こころ」を収録した。（第１・５号）	pp. 119-156
7　小説（五） 虚構の可能性 美神／アルプスの少女	・舞台設定や時代背景をふまえて読むこと、人物描写や表現効果に着目しながらテーマを考え、共有することをねらいとし、Ｒ博士と女神像との秘密を描いた「美神」、児童文学の名作の設定を生かして現実の戦争の一面を描いた「アルプスの少女」を収録した。（第１・３・５号）	pp. 157-180
8　随想・評論（三） 視点を広げる 月の誤訳／私の日本住居論／ ［書く］構成を考えて書く	・幅広い視点で日本の言語文化の特徴をとらえることをねらいとし、日本語とドイツ語の翻訳の際の工夫について論じる「月の誤訳」、英訳しにくい日本独自の文化について述べる「私の日本住居論」を収録した。（第１・５号） ・伝えたいことを印象的に書くため、文章の構成を工夫することをねらいとし、「構成を考えて書く」を設けた。（第１号）	pp. 181-196
9　詩・短歌・俳句 韻文の世界 竹／小景異情／ きみの呼びかけに／永訣の朝／ 短歌　十三首／俳句　十五句／ ［展開］共感と驚異／ ［書く］心情を描写する	・詩、短歌、俳句の形式やリズムを味わい、韻文の表現や効果を理解することをねらいとし、詩４編、短歌 13 首、俳句 15 句を収録した。（第１・２・５号） ・韻文の表現やその効果を考え、理解をより深めることをねらいとし、短歌の表現の工夫について論じた「［展開］共感と驚異」を収録した。（第１・５号） ・心情を描写するために語彙を選択し、表現を工夫して書くことをねらいとし、「心情を描写する」を設けた。（第１・３号）	pp. 197-219
▼近代の文章 【文体の変遷】 学問のすすめ／浮雲／胡蝶／ たけくらべ／多情多恨／ 花のいろいろ／不如帰／ 吾輩は猫である／ あめりか物語／刺青／鼻／ カインの末裔／恩讐の彼方に	・我が国の文章の伝統、変遷への理解を深めることをねらいとし、近代の文語文および明治から大正にかけてのさまざまな文章を「近代の文章」として収録した。（第１・５号）	pp. 220-224
第Ⅱ部 1　随想・評論（一） 表現の魅力 桜の中で、時が重なり合う／ 負の座標に向かって	・言葉による世界の多様なとらえ方に着目し、自然と人間との関係における言語表現の魅力を味わうことをねらいとし、桜の花の美しさと、その美をめぐる数多の時間について考える「桜の中で、時が重なり合う」、五月の青空に覚えた不安の正体について考えをめぐらせる「負の座標に向かって」を収録した。（第 １・２・４・５号）	pp. 239-250
2　小説（一） 日常への視点 鍋セット／桔梗くんへ／ ［書く］手紙を書く	・文体の特徴とその効果について理解を深め、作品をとおして日常的なできごとや体験の意味を振り返ることをねらいとし、一人暮らしをはじめる娘の、母との思い出を描いた「鍋セット」、初恋の人への手紙という形式をとった「桔梗くんへ」を収録した。（第１・２・３号） ・相手を意識して自分の思いを手紙に書くことをねらいとし、「手紙を書く」を設けた。（第１・２・３号）	pp. 251-276
3　小説（二） 寓意の世界 赤い繭／掟の門／ ［書く］視点を考えて書く	・表現の特徴をとらえ、その効果や意味を考えること、寓意による表現方法の批評性について理解を深めることをねらいとし、自分の家を探してさまよう男を象徴的に描く「赤い繭」、門に入ることを阻まれる男を描く「掟の門」を収録した。（第 １・３号） ・語り手の視点を意識して書くことをねらいとし、「視点を考えて書く」を設けた。（第１・５号）	pp. 277-290
4　随想・評論（二） 文化と伝統 藤／陰翳礼讃／［展開］闇と光	・言語表現による自然や文化のとらえ方に着目し、日本の伝統的な価値観やその変化について考えを深めることをねらいとし、身近な植物への思いや父・幸田露伴との思い出をつづった「藤」、日本の伝統的な明かりによって生じる闇や陰翳の中に美を見いだす「陰翳礼讃」を収録した。（第１・５号） ・「陰翳礼讃」については、日本と西洋での陰翳のとらえ方の違いをアニメーション監督が語る「闇と光」をあわせて収録し、比較して読むことで理解を深められるようにした。（第１・５号）	pp. 291-310

5　小説（三） 発見と批評 檸檬／待つ／ ［書く］ショートストーリーを書く	・登場人物の視点をとおして、世界のとらえ方について考えを広げること、語りの特徴に着目し、その効果を考えることをねらいとし、えたいのしれない不吉な魂にさいなまれる「私」を描いた「檸檬」、駅で何かを待ち続ける女性を描いた「待つ」を収録した。（第１号） ・構成や表現を工夫して文学的な文章を書き、互いに評価し合うことをねらいとし、「ショートストーリーを書く」を設けた。（第１・２号）	pp. 311-330
6　小説（四） 時代と表現 舞姫	・時代背景や舞台設定の意味について考え、登場人物の境遇と心情の関係をとらえることをねらいとし、「舞姫」を収録した。（第１・３・５号）	pp. 331-364
7　小説（五） 見知らぬ世界へ 冥途／伊豆の踊り子／ ［探究］異界との境界	・表現描写の特徴とその効果について理解を深め、作品の構造をとらえながら日常と違う世界について想像を広げることをねらいとし、あの世とこの世のあわいを描いた「冥途」、旅という非日常との出会いを描いた「伊豆の踊り子」を収録した。（第１・５号） ・文学作品などにあらわれる「境界」に着目し、調べて紹介し合うことをねらいとし、「［探究］異界との境界」を設けた。（第１・５号）	pp.365-392
8　随想・評論（三） 言語と文化 物語る声を求めて／ 「遊び」の伝統	・古今東西の言語文化についての理解を深め、言葉をとおして他者や社会との関わりを深めることをねらいとし、口承文学と物語について論じた「物語る声を求めて」、中古・中世の「遊び」と日本文化について述べた「『遊び』の伝統」を収録した。（第１・３・５号）	pp.393-412
▼戯曲 手紙	・戯曲の形式に親しみ、文学における多様な表現方法を知るとともに、夏目漱石と正岡子規について調べ、理解を深めることをねらいとし、アンドロイドが夏目漱石役を演じた戯曲「手紙」を収録した。（第１・５号）	pp.413-420

３．上記の記載事項以外に特に意を用いた点

・単元の内容やテーマについての理解を深めるコラム「文学の扉」を7本設け、文学に関するさまざまな知識を身に付けられるよう配慮した。さらに、同コラム内には単元やコラムの内容に関連する書籍を紹介する「広がる読書」を設け、読書に親しむ態度を育成できるよう工夫した。

・読書への意欲を喚起するよう、各教材に「著作案内」を設置した。

・第Ⅰ部と第Ⅱ部の間に、文学的な文章を豊かに読むための視点を紹介するコラム「文学を読むために」を設置し、読解に資するようにした。

・付録として「日本近現代文学史年表」と、文学で使われる語句や表現について解説した「文学に生きる言葉」を設け、文学的な文章を読んだり、自分で表現したりする際に役立つよう工夫した。

・巻頭、巻末の資料として、近現代の作家の関係を示した「日本近代文学の作家たち」、日本文学の世界への広がり、世界文学の日本での受容を紹介する「世界文学地図」、作品理解を深める参考図録「作品の中の動物・植物」を設け、文学に関する興味を広げ、通時的・共時的な理解を深められるよう配慮した。

編　修　趣　意　書

（学習指導要領との対照表、配当授業時数表）

※受理番号	学　校	教　科	種　目	学　年
103-73	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教　科　書　名		
50 大修館	文国 704	文学国語		

１．編修上特に意を用いた点や特色

●基本方針

・文学的な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、言語文化の通時的・共時的な広がりへの理解や、自らのものの見方、感じ方、考え方を深め、総合的な国語力をはぐくむことができるよう配慮する。
・文学作品を主体的に読むことをとおして、多様な解釈の可能性を知り、自らの感性を磨き、深く共感したり豊かに想像したりする力を身に付けられるよう配慮する。
・時代やジャンルによる文体の特徴や表現の効果について理解を深め、創造的に考え、自ら表現したり批評したりする力を身に付けられるよう配慮する。

●構成

・学習上の便宜を考慮して2部構成とした。単元構成は教材のジャンルに配慮しつつ、各単元のねらいにもとづいた編成とした。
・「書く」を7箇所に設け、課題に沿って文学的な文章を書く活動に取り組めるように工夫した。また、書く活動の参考となるよう、作家による文章を「名文案内」として紹介した。
・「探究」を2箇所に設け、テーマごとに複数の作品や資料を比較して読むことで学習を深められるようにした。
・第Ⅰ部と第Ⅱ部との間に、文学的な文章を豊かに読むための視点を紹介するコラム「文学を読むために」を設け、教材の読解に資するようにした。

●教材選択にあたっての配慮

・教材は、評価の定まっている基本的な作品や、現代の高校生が読むに値するテーマを追求した新鮮な作品、我が国の伝統的な言語文化への関心を深める作品をバランスよく配置した。
・小説、随想、評論、詩、短歌、俳句、戯曲、翻訳など多様な表現形式の作品を取り上げた。
・「近代の文章」を設け、明治～大正期における文章の文体の変遷をまとめて取り上げた。

●教材化の工夫

〈ねらいとする資質・能力の明確化〉

・単元扉に「単元のねらい」を掲げ、学習内容を明確化できるようにした。
・教材中の「脚問」をとおして、その教材で身に付けたい基礎的な読解力を養い、その力をもとに、教材全体の理解力を測る「学習のポイント」に取り組む構成とし、着実に学習の定着をはかれるようにした。
・漢字・語彙の学習に資するよう、漢字の読み替えや同音異義語、対義語などの情報も充実させた。

〈主体的な学習と読書への意欲の喚起〉

・生涯を通じた読書生活の充実に配慮し、各教材に「著作案内」を配し、読書への意欲を喚起するようにした。
・教材と比較して読むための「展開」を設け、教材の理解をより深められるようにした。
・教材化にあたっては、生徒の興味・関心、学習意欲を喚起する工夫を施すとともに、学習の参考となる写真や図版などを豊富に提示した。

●コラム・付録の充実

・単元の内容やテーマについての理解を深めるコラム「文学の扉」を7本設け、文学に関するさまざまな知識を身に付けられるよう配慮した。さらに、同コラム内には単元やコラムの内容に関連する書籍を紹介する「広がる読書」を設け、読書に親しむ態度を育成できるよう工夫した。
・付録として、「日本近現代文学史年表」「文学に生きる言葉」を設け、文学的な文章を読んだり、自分で表現したりする際に役立つよう工夫した。
・巻頭、巻末の資料では、生徒が文学に関する興味を広げ、通時的・共時的な理解を深められるよう配慮した。

２．対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容																												該当箇所	配当時数
		知識及び技能						思考力、判断力、表現力等																							
								A 書くこと								B 読むこと															
		(1)				(2)		(1)				(2)				(1)							(2)								
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ		
第Ⅰ部																															
1 随想・評論(一) 想像と共感	飛ぶことを知っている魂	○	○	○	○	○	○									○					○		○						p. 7 ～20	A:2 B:3 計5
	十八歳の選択	○	○	○	○	○	○									○					○		○							
	［書く］体験に基づいて書く	○	○					○			○	○																		
2 小説(一) 現代への視点	旅する本	○	○	○	○	○	○									○	○	○		○	○		○	○					p. 21 ～52	A:0 B:5 計5
	［展開］「旅する本」について	○	○	○	○	○										○		○		○	○		○	○						
	巨人の接待	○	○	○	○	○	○									○	○		○		○		○							
	〈文学の扉〉文学とは何か	○		○			○																							
3 小説(二) 語りの世界	山月記	○	○	○	○	○	○									○	○	○	○	○	○	○	○						p. 53 ～68	A:0 B:10 計10
	［探究］翻案が広げる世界	○	○	○	○	○	○									○		○		○	○	○	○					○		
4 小説(三) 想像を広げる	山椒魚	○	○	○	○	○	○									○	○				○	○	○						p. 69 ～96	A:0 B:5 計5
	離さない	○	○	○	○	○	○									○	○		○		○	○	○							
	〈文学の扉〉作品に現れる動物	○					○												○			○								
5 随想・評論(二) 自然を表す	鹿を追いかけて	○	○	○	○	○	○									○	○	○		○	○	○	○	○				○	p. 97 ～118	A:4 B:4 計8
	［展開］かもしか	○	○	○	○	○										○	○	○		○	○		○							
	浄瑠璃寺の春	○	○	○	○	○	○									○	○				○		○							
	［書く］情景を描写する	○	○		○			○		○	○	○	○																	
6 小説(四) 記憶の継承	こころ	○	○	○	○	○	○									○	○	○		○	○	○	○						p. 119 ～156	A:0 B:12 計12
	〈文学の扉〉青年と近代文学	○					○													○		○						○		
7 小説(五) 虚構の可能性	美神	○	○	○	○	○	○									○	○		○		○		○						p. 157 ～180	A:0 B:4 計4
	アルプスの少女	○	○	○	○	○	○									○	○	○	○	○	○	○	○							
	〈文学の扉〉作品の映像化	○					○															○				○		○		
8 随想・評論(三) 視点を広げる	月の誤訳	○	○	○	○	○	○									○					○		○						p. 181 ～196	A:5 B:5 計10
	私の日本住居論	○	○	○	○	○	○									○					○		○					○		
	［書く］構成を考えて書く	○	○	○				○	○		○	○																		
9 詩・短歌・俳句 韻文の世界	竹	○	○	○	○	○	○									○	○				○		○						p. 197 ～219	A:4 B:5 計9
	小景異情	○	○	○	○	○	○									○	○		○		○		○							
	きみの呼びかけに	○	○	○	○	○	○									○	○				○		○							
	永訣の朝	○	○	○	○	○	○									○	○				○		○							
	短歌　十三首	○	○	○	○	○										○	○		○		○		○							
	俳句　十五句	○	○	○	○	○										○	○				○		○							
	［展開］共感と驚異	○	○	○	○	○										○	○	○	○	○	○		○	○						
	［書く］心情を描写する	○	○		○			○		○	○	○	○																	
▼近代の文章	文体の変遷	○	○	○	○	○										○	○	○		○	○		○						p. 220 ～224	A:0 B:2 計2
文学を読むために		○			○											○	○	○	○			○	○	○					p. 225 ～238	―

図書の構成・内容		学習指導要領の内容																												該当箇所	配当時数
		知識及び技能						思考力、判断力、表現力等																							
								A 書くこと								B 読むこと															
		(1)				(2)		(1)				(2)				(1)							(2)								
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ		
第Ⅱ部																															
1 随想・評論(一) 表現の魅力	桜の中で、時が重なり合う	○	○	○	○	○	○									○					○		○						p. 239 ～250	A:0 B:4 計4
	負の座標に向かって	○	○	○	○	○	○									○					○	○	○				○			
	〈文学の扉〉文学を伝える	○					○																							
2 小説(一) 日常への視点	鍋セット	○	○	○	○	○	○									○	○		○		○		○						p. 251 ～276	A:4 B:5 計9
	桔梗くんへ	○	○	○	○	○	○									○	○		○		○		○					○		
	［書く］手紙を書く	○	○	○	○			○	○	○	○	○																		
3 小説(二) 寓意の世界	赤い繭	○	○	○	○	○	○									○	○				○		○		○				p. 277 ～290	A:5 B:4 計9
	掟の門	○	○	○	○	○	○									○	○		○		○		○							
	［書く］視点を考えて書く	○	○		○			○		○	○	○	○																	
4 随想・評論(二) 文化と伝統	藤	○	○	○	○	○	○									○					○		○						p. 291 ～310	A:0 B:5 計5
	陰翳礼讃	○	○	○	○	○	○									○		○		○	○		○	○						
	［展開］闇と光	○	○	○	○	○										○		○	○	○	○		○	○						
5 小説(三) 発見と批評	檸檬	○	○	○	○	○	○									○	○		○	○	○		○						p. 311 ～330	A:6 B:6 計12
	待つ	○	○	○	○	○	○									○	○		○	○	○		○							
	［書く］ショートストーリーを書く	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○															
6 小説(四) 時代と表現	舞姫	○	○	○	○	○	○									○	○	○		○	○	○	○					○	p. 331 ～364	A:0 B:15 計15
	〈文学の扉〉欧米への憧憬	○					○													○		○						○		
7 小説(五) 見知らぬ世界へ	冥途	○	○	○	○	○	○									○	○	○		○	○	○	○					○	p. 365 ～392	A:0 B:7 計7
	伊豆の踊り子	○	○	○	○	○	○									○	○	○		○	○	○	○			○				
	［探究］異界との境界	○	○	○	○	○	○									○	○	○		○	○	○	○	○				○		
8 随想・評論(三) 言語と文化	物語る声を求めて	○	○	○	○	○	○									○			○		○	○	○						p. 393 ～412	A:0 B:6 計6
	「遊び」の伝統	○	○	○	○	○	○									○					○	○	○							
	〈文学の扉〉世界に広がる文学	○					○															○						○		
▼戯曲	手紙	○	○	○	○	○							○			○	○	○		○	○				○			○	p. 413 ～420	A:0 B:3 計3
付録・資料	日本近現代文学史年表／文学に生きる言葉／日本近代文学の作家たち／「山月記」の世界／「こころ」の世界／「舞姫」の世界／作品の中の動物・植物／世界文学地図	○	○				○													○									p. 421 ～439, ①～⑭	—
																													総計	140